

原因からみる海難 その3 操船不適切

■「操船不適切」とは、いわゆる「操船ミス」の事ですが、入出港中や操業中によく見られ、主に衝突や推進器障害をはじめとする海難が発生しています。何故操船ミスしたのか、事例を基にその要因を紹介します。

事例1：衝突

着岸作業中、風に圧流されて岸壁に衝突し、船体及び岸壁の衝突箇所が損傷した。

事例2：推進器障害

乗組員がパラシュートアンカーを引揚げ中、船長が帰港を急ぐあまり作業状況を確認せずに前進をかけたため、パラシュートアンカーがスクリューに絡まって航行不能になった。

低速航行中は、風潮流の影響を受けやすい

作業状況の確認が行われていなかった

操船ミスによる海難を予防するために
風潮流の影響に細心の注意を！
乗組員同士の安全確認を密に！

4月25日現在の海難隻数及び海難による死者・行方不明者数（速報値）

7隻、0名 平成24年累計（速報値）
23隻、4名

航路標識の異常に気づいたら！

灯台、ブイなどの航路標識は安全な航海のための大切な指標です。

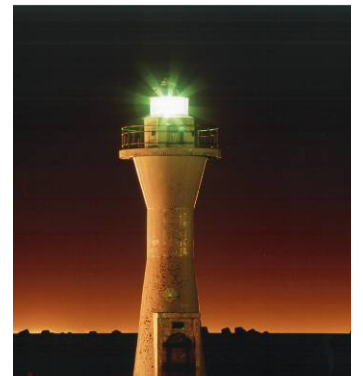
- もし、○ 消えている
- 光り方が違う
- 位置がおかしい

などの異常に気づいた場合は、「118番」もしくは最寄の「海上保安部」「海上保安署」まで連絡をお願いします。

■航路標識は、海上保安部の職員などにより定期的な確認、メンテナンスを行っています。

それでも、機器トラブルや台風、低気圧、落雷など不慮の事態により障害が発生することがあります。

標識の異常は安全な航海に支障を来し、乗揚げ、衝突といった海難へつながることもあります。他船への情報共有のためにも、異常を発見した場合は直ちに連絡をお願いします。



いつもと違う光り方

- 点滅しない(つきっぱなし)
- 点滅周期が違う
- 色がおかしい(暗い)



移動している(?)

